

[研究論文]

保健体育科教育におけるゲストティーチャーの活用に関する実践的研究 ー武道（空手道）の学習指導における活用例ー

A Practical Study on Utilizing Guest Teachers Specialized in Karatedo
for Health and Physical Education Lessons

松 崎 治 一

Harukazu MATSUZAKI

福岡教育大学 教職実践ユニット

(2022 年 1 月 31 日受理)

平成 20 年の学習指導要領改訂にともない、武道については「その学習を通じて我が国固有の伝統と文化に、より一層触れることができるよう指導の在り方を改善する」としている。しかし、武道の経験がない教員にとっては、指導方法の改善は進んでいないのが現状である。特に、専門的な武道の経験がない教員にとって、生徒たちに武道の特性に触れさせる指導を行うのは大変難しいことである。そこで、その課題を解決するためには、外部の教育資源であるゲストティーチャーを活用することが重要であると考えた。本研究では、保健体育科の学習指導にゲストティーチャーを活用した授業を分析・考察することによって、今後の保健体育科教育におけるゲストティーチャーの活用の仕方について検討した。

キーワード：保健体育科教育 ゲストティーチャー 空手道の学習指導

1 問題の所在と研究の目的

文部科学省（2012）は我が国固有の伝統と文化への理解を深める観点から平成 24 年からの武道必修化の方針を打ち出した。このことにより各中学校では、武道の学習に力を入れることになり、中学校 1・2 年生が全員武道に触れることになった。

また、武道の学習ではこれまで「剣道」、「柔道」「相撲」の三種目から選択して学習することになっていたが、新たに学校や地域の実態に応じて、「空手道」、「なぎなた」、「弓道」、「合気道」、「少林寺拳法」、「銃剣道」など我が国固有の伝統と文化により一層触れることができるようにすると示された。

日本には、誇るべき武道の文化がある。この文化を教育の中で取り上げ、指導することにより心と体を磨き、人間としてあるべき姿を学ばせることとなる。

そのためには、武道の特性に触れてもらうような学習にすることが何よりも重要である。

また、平成 20 年改訂の学習指導要領の課題について、中央審議会答申（2008）では、学習したことを相手に分かりやすく伝えること等に課題があること、運動する子供とそうでない子供の二極化傾向が見られること、子供の体力について低下傾向に歯止めが掛かっているものの、体力水準が高かった昭和 60 年ごろと比較すると、依然として低い状況が見られることなどの指摘がある。また、一般的に体育の授業では、学習目標の対象とされる中間層の約 7 割の生徒は、適切な指導が行われることによって学習効果が見込める。しかし、運動能力が低い生徒、体力がない生徒、運動が不得意な生徒は、学習に対する意欲がない場合が多く学習について行けないことがある。そのため、学習活動に参加できなかったり具体的な活動を行うことができなかつたりする状況である。このような状況を教師が把握していても全体の指導だけで学習活動が進み、その生徒たちに対する具体的な指導まで手が回らない状況である。

また、逆に運動能力が高く学習する種目の経験があり得意な生徒は、教師が設定している学習目標をすでに達成している場合が多く、そのような

生徒には指導の目が行き届かなかったり、さらに高い技能を伸ばすための適切な指導を受けられなかったりすることがほとんどであり、学習保証の観点からすれば懸念される状況である。

そして、そのような課題を解決する方法はほとんど研究されていない。

そこで、武道の学習においてその特性に触れさせるために地域で活動している指導者等を活用して武道のもつ教育的な意義にしっかりと触れさせ、学ばせることで上記の課題に対する解決の糸口が見えてくるものと考えている。

本研究では、空手道の学習指導において教育活動の質を高め、より効果的な学習を展開するために地域で活動している指導者等をどのように活用すればより多くの生徒が武道の特性に触れることができ学習効果が得られるのかを明らかにする。

さらに、ゲストティーチャー（以下G T）を活用することによるメリットとデメリットを明らかにして今後のG Tを活用した授業を行いやすくするための方法や工夫を提案したい。

2 研究の方法

本研究では、平成24年度中学校教頭としての勤務時に福岡市立の中学校第1学年に実施した武道（空手道）の授業実践について、ゲストティーチャー（以下G T）の活用という視点から分析と考察を行う。

3 研究の内容

以下の点について分析・考察を行うことによってG Tとして活用する方法などについて検討する。

- (1) ティームティーチング（以下T T）による指導について
- (2) G Tとの事前打ち合わせについて
- (3) 指導計画の立案について
- (4) G Tとの授業前の打ち合わせについて
- (5) G Tの指導について
- (6) G Tによる評価について
- (7) 授業実践の計画
- (8) 実践の具体と分析

4 研究の実際

(1) T Tによる指導について

本研究におけるG Tの活用は、T Tによる指導形態の一つである。そこで、T Tによる指導とは、複数の指導者が役割を分担し、協力し合いながら

指導する方法のことであり、指導者一人ひとりの個性を活かした組織的な指導体制である。

(2) G Tとの事前打ち合わせについて

本研究では、二人のG Tに協力を依頼し、授業に指導者として参加していただいた。地域で空手道を指導されているA氏とA氏の弟子であるB氏である。A氏に協力を依頼したところ、B氏にその内容が伝わり二人で指導に参加していただくことになった。事前の打ち合わせとして以下の点について確認も含め具体的に行った。

- ① 事前打ち合わせの時期と場所
- ② これまでの指導経験
- ③ 現在の生徒の実態
- ④ 授業の決まりと指導者としての心得
- ⑤ 指導目標（目指す生徒の姿）
- ⑥ 単元計画の概要説明
- ⑦ 指導可能な日程の確認と調整

(3) 指導計画の立案について

指導計画の立案方法については、保健体育科の教員がリードしなければならない。しかし、保健体育科の教員が空手道の経験者か未経験者かによって大きく違ってくる。

① 教員が経験者の場合

自ら取り組んできた内容を元に初心者や技能レベルに応じて学習内容と活動内容を計画することができる。この場合は、G Tとの打ち合わせの際に調整する程度で指導計画を決定することができる。

② 未経験者の場合

G Tとの事前打ち合わせの際に、生徒の実態や経験のある生徒の数等を伝え指導内容の検討を行うことになる。初めて取り組む場合は、指導時間数を伝え、G Tの指導経験等を元に指導内容とその内容を理解し習得するための時間数を検討しなければならない。そして、指導計画を教員が立案し、再度G Tとすり合わせをして決定していかなければならない。

本研究では、経験者が立案し、指導をT 1として進めた。

(4) G Tとの授業前の打ち合わせについて

毎回の授業前の打ち合わせについては、G Tの日程を優先し、以下のことに配慮して行った。

- (ア) 打ち合わせのための日程調整
- (イ) 打ち合わせ場所の確認・調整
- (ウ) 指導内容・方法・場所の説明・確認
- (エ) G Tからの要望などの確認

(5) G Tの指導について

本研究では、武道の特性および本質に触れることをより多く経験させることを目指し、安全面に

特に配慮しながら以下の点を中心に指導にかかわっていただいた。

① 態度・知識に関すること

礼法と所作について

② 技能に関すること

- ・立ち方と姿勢について
- ・突きと蹴りの基本的な動きについて
- ・形の行い方について

(6) GTによる評価について

本研究では、毎時間の指導の後に打ち合わせの時間を設定し生徒に関する評価と教員の指導に関する評価をいただいた。生徒に関する評価は、態度や技能に関することを共有し、その後の指導に活かすように努めた。また、教員の指導に関する評価については、指導の仕方やポイントについてアドバイスをいただいた。

(7) 授業実践

本研究では、平成24年11月21日に福岡市立中学校で行った授業をもとに考察・検討を行う。

なお、本項においては指導の詳細を示すために学習指導案を提示する。

【学習指導案】

実践校・実践学級

福岡市立中学校 第1学年1・2組 61名

実施日

平成24年11月21日(水) 第5校時

単元とその指導について

「武道」空手道 本時 10/10 時間

指導観

武道は、我が国固有の文化であり、その中のひとつである空手道は、かつて琉球王国であった沖縄県に古くから伝わっていた「手」(ティー)という武術が、中国から伝わった中国武術の影響を受けて独自の発展をしたものである。空手道は、本来人間のもつ安全の欲求を充足させること、すなわち害意を持った相手から身を守る自己防衛動作を発祥の起源としている。“空手に先手なし”という空手道固有の考え方、行動の仕方がこれを示している。

また、空手道は、相手の動きを想定した基本動作と高度な技能を組み合わせで構成された「形」と、相対する二人が相手の動きに応じて互いに自由に攻め合い、攻防の技能を競い合う「組手」がある。そして、性別・年齢を問わず個人の体力に応じて誰でも行うことができ、一人でも、限られた狭い場所でも練習できるため、多くの人にとって、生涯にわたって実践しやすい内容を持っている。さらに、空手道の運動・動作には、左右を均等に使用する動きが多いため、身体全体をバランスよく発達させる効果があり、調整力(敏捷性、平衡性、柔軟性)の向上や筋持久力・全身持久力などを養うことができる。また、格闘技形式の競技特有の勇気、決断力などを養うことができる。

練習や試合では、相手を尊重する態度、礼儀、公正な態度を養うことができる。これらの特性をもつ空手道は、心身ともに発達の著しい中学生期においては非常に意義深い教材である。

本学級の生徒は、男女ほぼ同数で、仲がよく、活動的であり保健体育の学習にも積極的に取り組んでいる。リーダーは、男女ともに意識が高く、生徒会活動等にも積極的に関わっている。また、学習規律も正しく守れており、チャイム着席(3分前黙想)や学習ノート(空手道)の提出状況も大変良い。本学級の生徒男女61名の授業前アンケート調査の結果から、空手道の「経験者」は8人で13.1%であり、予想以上に多い。また、「空手道の授業を受けてみたいか」については「ぜひ受けてみたい」と「受けてみたい」を合わせると40名で65.6%であり、授業を受けることに対する期待が高く、空手道に対して興味・関心があることが伺えた。一方、「武道に関するイメージ」では77の回答(重答)があり、53.2%(41)が「痛い」、「苦しい」、「戦い」などのマイナスイメージである。また、「空手道に関するイメージ」では70の回答(重答)があり、62.9%(44)が「なぐる・ける」、「痛い」、「素手・裸足」などのマイナスイメージである。プラスイメージでは、「強い」、「男子」、「自分の身を守る」などがあつた。これらのことから生徒の多くは、武道に対して痛みや苦しみをとまなうスポーツであるというイメージをもっていることがわかった。

本単元では、我が国固有の文化である武道の伝統的な行動の仕方や考え方を理解するとともに、相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を身に付けるとともに、基本形を習得し練習や競技形式で発表できるようにすることで勝敗を競い合う楽しさや喜び、礼儀作法などを学ばせることをねらいとしている。

そのためにまず、オリエンテーションを行い、武道・空手道の歴史や特性、学習の仕方を理解させる。ここでは、個人ノートを活用し、学習目標、授業の約束事項、空手道の歴史・特性などを説明し理解させる。その際、礼法の意義・行い方を丁寧に指導し、納得して行うように配慮する。

次に、立ち方、受け・突きなどの基本動作を習得させる。ここでは、各基本の技を解説し、全体で一斉に繰り返し練習させる。その際、地域指導者と連携し、各技能の行い方や習得のために必要な支援をしていただく。

さらに、二人一組になり受けから突きの約束組手を学習させる。その際、約束組手の始めと終わりは必ず「お願いします」、「ありがとうございました」の立礼をさせる。そして、突きが相手にあたってもケガしないように、拳にタオルを巻かせることによって安全に配慮する。

最後に、基本形を身につけ、団体形の発表会を行わせる。その際、まず基本形のビデオを視聴させ、視覚的に基本形のイメージを持たせる。ここでは、全体で繰り返し練習し、習得させる。その際、地域指導者と連携し、形の行い方や習得のた

めに必要な動きの解説など支援をしていただく。そして、団体形（基本形）の発表会を行わせ、学習のまとめとする。ここでは、三人一組でチームを組み、演武の体型を考えさせ、競技会形式の発表会を行わせる。その際、全員に演武と審判をさせることにより、団体形を見る視点を養わせる。

目標

○ 空手道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を行おうとしたり、分担した役割を果たそうとしたりする。また、活動を通して健

康・安全に気を配ろうとしている。

○ 課題に応じた練習方法を工夫したり、技を身に付けるための運動の行い方のポイントを見つけたりすることができる。

○ 技ができる楽しさや喜びを味わい、相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を身に付けて個人形を演武することができる。

○ 空手道の歴史や特性、伝統的な考え方や礼法、技の名称や行い方などがわかる。

単元計画

関：関心・意欲・態度 思：思考・判断 技：技能 知：知識・理解

段階	学習活動・内容	配時	○主な手だて	評価規準
導入	1 空手道の歴史・特性や学習の仕方を学習する。 ・空手道の歴史や特性 ・学び方や約束事項	1	○ 歴史・特性や礼法の意義について、理解させるために、ポイントをおさえて説明する。	関：伝統的な行動の仕方を正しく受け止め、守ろうとしている。
	2 空手道に必要な基本動作を学習する。 ・立ち方 ・突き ・受け ・移動の仕方（前屈立）	2	○ ペアで互いの動きを確認したり、教え合ったりして練習させる。 ○ 動きを身につけさせるために最初は力の抜いてスローで動きを確認させる。	知：空手道の歴史や特性について理解している。 技：正確な基本動作ができる。 関：安全を確かめて活動している。
展開	3 身につけた基本動作を使って約束組手を行わせる。 ・突きの受け ・受けから突き	3	○ 身につけた基本動作を実際の技にできるかペアで学習し確認させる。 ○ 基本動作を実際の技にできるためにペアでポイントを考えさせる。	技：相手の動きに応じて、基本動作ができる。 思：身につけた基本動作を約束組手に使うためのポイントを2つ以上挙げるることができる。
まとめ 10/10	4 身につけた技能(受けや突き)を用いて個人形を学習する。 ・技のポイント ・演武前後の動作や礼 ・発表会の行い方	3	○ 自分の課題を解決するために教師のアドバイスや学習プリントを用いて練習方法を工夫させる。	技：身につけた技能を使い、個人形を演武できる。
	5 団体形(基本形)の発表会を行う。	1	○ 身につけた技能や知識を実感させるために、それぞれの演武のよさを発表させる。	思：団体形の演武のよかった点や改善点をあげることができる。

(8) 実践の具体と分析

① 授業分析

本研究では、以下の3点から実践の具体を取り上げ分析を行った。

ア 教員の指導

今回初めて取り組む武道「空手道」の指導においてT1として全体を把握するために他の教員やGT二人と連携しコミュニケーションを図りながら指導を進めた。また、生徒の実態を把握するために学習ノートを活用し、コメント記入などを毎回全生徒に対して行った。さらに、授業前後の打ち合わせを行い、指導内容や指導方法について意見交換などを積極的に行ないながら中心となって指導を行った。

GTの活用については、教員が技の動きについて説明をしているときに生徒の前で実際の動きで説明の補助をしてくれたことや生徒の実態と指導の内容や方法が適切であるかを把握する際に状況の変化や指導の効果などについて意見を出していただいたことが有効であった。

イ GTによる指導

まず初めに、生徒の実態の把握や中学校の保健体育の学習に対する理解を深めていただくために状況を説明し、共有することを心掛けた。

次に、空手道に必要な基礎・基本の動作である「突き」、「蹴り」の指導において技能的な内容を重点的に指導していただいた。その際、個人や各チームに対して「立ち方」や動きのポイントを生徒に分かりやすく説明するために、できるだけ動作を示しながら指導に当たるようお願いした。

さらに、「形」の指導においては、各個人の基本動作を正確に行わせることと合わせてチームで学び合わせることを配慮して指導していただいた。

GTの指導については、生徒の実態を観察し把握するまではほとんど行われていなかったが、実態を把握してからは個やチームに応じた指導を随所に行っており、効果的であった。特に、武道の特性に触れ、「立ち方」、「突き」、「蹴り」などの基礎・基本の動作の習得には有効であり、正確な技を早く体得させることができた。また、「形」の指導においては、技と技のつながりを意識して指導しており短時間で「形」を演武できるように指導できたことは注目すべきことである。

ウ 生徒の活動

空手道の学習に対しては、初めて取り組む生徒がほとんどであり興味や関心が高く、毎回の授業において積極的に活動する生徒がほとんどであっ

た。また、動きがわからない生徒や間違った動作をしている生徒に対しては、机間指導を行っているGTが素早く気づき丁寧な指導を行うことができ効率的であった。

積極的に活動する生徒が多く、興味・関心も高いので動きの理解や基本動作の習得が早かった。また、生徒同士が仲が良いのでペアやグループでの学習もスムーズに進み、チームで団体形の発表をすることができた。このことは、毎回の授業でGTが基礎・基本の動作をしっかり観察し、粘り強く丁寧に指導していたので「技」の習得が早かったのだと考えられる。

5 考察

(1) 授業全般を通して

GTを活用することによって、生徒の知識・技能の習得が早く、学習目標を早く・高く達成することができた。

専門的な知識・技能を有する複数のGTによる指導により、運動を不得意とする生徒にも丁寧な指導で分かりやすく教えることができた。また、空手道の経験があり技能的に高い生徒にはさらに高いレベルの技能を指導するなど日頃の指導ではなかなか手が回らないところを十分に指導してもらうことができていた。このことにより空手道の特性に触れさせることができ全体的に学習効果があがった。

(2) 基礎・基本の動作の習得において

「立ち方」、「突き」、「蹴り」、「受け」は、正しい動作の習得が必要である。そのためには、正しい動作で繰り返し反復練習することが必要となる。そこで基礎・基本の動作を習得させるために、まず、一斉指導を行った。その際、GTに模範演技をしてもらう。その後、「突き」、「蹴り」、「受け」の技の解説をしてもらった。そして生徒に実際に各技を繰り返し行わせた。GTには、机間巡視を何度も行なってもらい、間違った動きをしている生徒や身体の動かし方が理解できていない生徒に個別指導を徹底していただいた。

次に、ペアやグループに分かれて生徒同士で基礎・基本の動作を見合わせ、気づいたことやアドバイスを伝え合う場を設定した。その際もGTに巡回指導してもらいながら各技の習得を目指させた。

このような指導を繰り返し生徒の「つまずき」の解消を図る指導を続けた。このことにより生徒たちは、空手道の特性としての身体の使い方や力の入れ方等を少しずつ理解し、基礎・基本の動作を習得していった。

また、教員もその指導の仕方を間近で見ることによって自分の基礎・基本の動作を振り返るとともに、その後の指導に役立ており教員自身の指導力を伸ばすことができていたようである。

(3) 形の指導において

形競技には、団体戦及び個人戦がある。各チームは、3名から構成される（全日本空手道連盟、空手競技規定、平成24年6月17日）こととなっており本実践では、個人形と団体形の2つを学習内容とした。

形の指導において大切なことは、正確な技を行うことと各技を順番通りにつなげる動きを習得させることである。

まず、はじめにG Tに模範演技をしてもらった。そのことで形演武の美しさや力強さ・ダイナミックさ等を実感させ、形習得への意欲や興味・関心を喚起させた。

形の指導においては、個人形に対する指導と団体（グループ）形に対する指導の二つが考えられる。

【個人形に対する指導の場合】

正確な基本動作の行い方を指導するとともに、技と技のつながりに関する指導が主な指導内容であった。

【団体（グループ）形に対する指導の場合】

主に3人から4人でグループを作り、団体形として指導し、発表会で演武することを意識して指導にあたった。その際、技を正確に行うことと合わせて、全員で形を行う速さや次の技に入るタイミングを合わせることを意識して指導にあたっていたことが効果的であった。

(4) 形の発表会において

形の発表会においては、団体（グループ）形としてのまとめ具合を見て指導・助言していただいた。その際、団体（グループ）形としての技の正確性、演武のスピードの一致、発声による気合いの表現などを総合的に判断して指導・助言していただいた。

(5) 今後のゲストティーチャーを活用した授業について

①G T活用の目的

今回の学習指導要領改訂の基本方針の前文に「社会に開かれた教育課程」の実現を目指すこととある。そして、その実現のために、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするかを教育課程において明確にしながら、社会との

連携及び協働によりその実現を図っていく、「社会に開かれた教育課程」の実現が重要になることと示している。このことから、校区や地域の人材を活用して学校教育を充実させることはとても重要なことといえる。したがって、G Tを活用して教育効果をあげることは今回の学習指導要領の実施においても引き続き重要なことである。

また、保健体育科の学習においては、運動する子供とそうでない子供の二極化傾向が課題としてあげられている。この運動しない子供をどうやって指導するのかが課題である。この運動をしない子供や運動を不得意とする子供を懇切丁寧に指導する必要がある。そこで教師による指導プラスG Tを活用した指導を行い教育効果をあげることが有効であると考ええる。

さらに、運動が得意な子供の場合、教師の指導において早い段階で学習目標や課題解決が達成できていることが多い。そのような場合は、G Tの専門性を活かしてさらに高いレベルの目標や課題に挑戦させることが必要である。

このように、学習目標の対象とされる約7割の生徒は、学習効果が見込める。しかし、運動が不得意な生徒や得意な生徒は指導の目が行き届かなかったり、適切な指導を受けられなかったりすることが懸念される。このような、運動が不得意な生徒や得意な生徒にも適切な指導をするためにG Tを活用することは大変重要であると考ええる。

② G Tの発掘・選定・依頼について

中学校で学習する運動種目に対して教員が専門的な知識や技能を有していないものについては積極的に外部の地域人材等を活用する工夫をしたほうが生徒の学習内容の理解や習得において有効であることは容易に判断できるが、誰をG Tとして活用すればよいのかは難しい問題である。

常日頃より地域やスポーツ関係組織・団体（連盟・協会）に関心を持ちG Tとして活用できる人材を発掘していかなければならない。その際、教育委員会やスポーツ関係組織・団体に人材バンクとして登録制度がある場合があるのでそこに問い合わせることが賢明である。また、PTAの役員や各部活動の保護者から情報を集めることも有効な情報となりえることも多い。

G Tを選定し依頼する場合、まず、保健体育の学習で取り組みたい内容等を説明しG Tの意向を確認しなければならない。そのうえでどのような授業への協力が可能かや学校教育に対する理解が得られるかを確認しなければならない。

③ 学習の目的・目標の共有について

G Tが専門とする種目の経験やその種目に関する指導経験を聞き取り、保健体育の学習においてどのような目的や目標で指導するのかを丁寧に説明しなければならない。この説明を十分に行わないと単なる技術指導だけに終わってしまうので注意しなければならない。

④ 指導の仕方や生徒との関わり方について

生徒への指導の仕方については、特に丁寧にしなければならない。配慮を要する生徒は特に正確に伝え、連絡ミスがないようにしなければならない。

また、指導の仕方として日頃教員が心がけている内容について分かりやすく説明し理解を促さなければならない。例えば、名前の呼び方「～さん」やできるだけからだや衣服に触れないように言葉で分かりやすく説明するなどが必要である。

⑤ 授業指導終了後について

指導に関する個人的な内容について授業終了後は、一切口外しないという守秘義務について説明し、理解していただかなければならない。

6 考察にもとづく展望

以上のような考察にもとづき保健体育の学習指導にT Tの指導形態を取り入れることによるメリット、デメリットを次のように考える。

・メリット

- ① 複数の指導者が関わることで生徒の多様な実態を把握することができる。
- ② 指導者一人一人の特性や専門性が生徒の学習活動に活かせる。
- ③ 多様な学習活動を仕組むことができ、生徒の実態に応じた指導ができる。
- ④ 個や集団に対してきめ細やかな指導ができるとともに評価資料を集めることができる。

・デメリット

- ① 複数の指導者が関わることで個々の意識が依存的になりやすく、生徒への働きかけが停滞する可能性がある。
- ② T 2 となった指導者の意識が低いと生徒の補助や管理だけに終始する場合もある。
- ③ 指導者の意識が低いと指導目標の共有化が希薄となり、その場限りの指導や対応になる場合がある。

また、G Tを招いて指導を行う場合のメリット、

デメリットを次のように考える。

・メリット

- ① 保健体育科の教員が有していない専門的な知識や技能について指導することができる。
- ② 教員が生徒と共に学習を深め、教員の指導力が向上する。
- ③ G Tの専門的な知識や技術・技能を学ぶことによってその特性に触れることができ、生徒の学習意欲が喚起される。

・デメリット

- ① 学校での指導に関する共通理解や生徒の実態を共有するために打ち合わせをする時間が必要となる。
- ② 時間割などの教育課程をG Tの予定で変更することが難しく、日程調整にかかる課題がある。
- ③ 依頼するG Tによっては、予算が発生する場合もある。

そこで、武道における学習指導については、専門的な経験を有する教師も限られ、加えて活動場面での重篤な事故が発生する可能性もあり、学校現場における武道の学習指導については慎重かつ綿密な指導計画を立案する必要がある。

そこで、G Tを取り入れ、活用する学習指導の流れや留意事項をまとめ、提案すると次のようになる。

(1) G Tの発掘・選定・依頼

指導する運動種目のG Tを選定するためにその種目の競技団体である県・市・町・村の連盟や協会へ連絡して指導者の要請をする。その際、校区在住の指導者や学校の近隣の方を考慮して推薦してもらう。

(2) 学習指導計画の立案

リーダーとなる保健体育科教師が学習計画を立案し、学習目標・活動内容等を十分に協議し、学習目標の共有化を図る。その際、生徒の実態を共有し、無理のない計画にすることが重要である。

- ・学習資料や学習ノートの準備
- ・活動場所の整備
- ・学習教材や用具の準備 等

(3) オリエンテーション

これからの学習への意欲や興味・関心を喚起するとともに、学習の決まりや活動の流れを理解させる。

- ・G Tによる模範演技

- ・ICT機器を活用した映像の活用

(4) 学習活動

活動内容によって、多様な指導の仕方を工夫し、取り入れる。

○安全面に配慮した指導の仕方

- ・指導者の配置（T 1，T 2，G T 1，G T 2・・・）
- ・柔軟な学習形態の活用（一斉，ペア，グループ，個別）
- ・活動場面での共通の指導事項の確認

○個々の習熟度に応じた指導の仕方

- ・習熟度別グループ編成
- ・個人抽出による指導

○評価場面での指導の仕方

- ・スキルチェック
- ・話し合い活動の様相チェック
- ・記述内容のチェック

毎時間ごとに、指導者のミーティングを行い、次時の活動に活かすことが大切である。

(5) 評価活動

各指導者が役割分担して評価資料を収集する。

- ・観点別評価
- ・総括的な評価

G Tには、武道の特性に照らし合わせて技能に関する評価だけではなく3つの観点から評価していただかなければならない。そのためには3つの観点を丁寧に説明し、評価活動に協力していただくようにしなければならない。

7 成果と課題

(1) 成果

本研究では、G Tを活用することによって生徒が武道の特性に触れ、基礎・基本の技を正確に早く習得することに有効であることが示唆された。

また、G Tの指導の仕方を教員も見ることによって、専門的な内容の理解と指導の仕方が深まった。

そして、G Tを活用することによって、運動の不得意な生徒も武道の学習に興味・関心を持ち、技能を習得したり、特性に触れさせたりすることができた。

さらに、運動の得意な生徒もより高い目標を設定し取り組ませることができた。

(2) 課題

本研究における課題としては、G Tの発掘・選定

が難しく、依頼に時間がかかり、事前の準備に労力を要するため、保健体育科の教員がG Tを活用した指導を断念することになる。そのようなことにならないようにするために常日頃より地域やスポーツ関係組織・団体（連盟・協会）に関心を持ちG Tとして活用できる人材を発掘していかなければならない。その際、教育委員会やスポーツ関係組織・団体に人材バンクとして登録制度がある場合があるのでそこに問い合わせることが賢明であることを周知することも必要である。

また、G Tとの打ち合わせの時間設定や指導計画の作成と共有をどのように進めるかが課題となる。

さらに、指導内容や方法の共有と評価活動をどこまで依頼するかが課題として挙げられる。

引用・参考文献

- 中央教育審議会答申 2008
上條晴夫編著 ゲストティーチャーと創る授業：招き方からその実際まで 学事出版
公益財団法人 全日本空手道連盟 中学校授業のための、新しい空手道情報誌 あゆみ 2011vol. 1～2 2012vol. 3～6
公益財団法人 全日本空手道連盟 2012 空手競技規定
財団法人 日本武道館 財団法人 全日本空手道連盟 2010 空手道指導の手引き
文部科学省 2008 学習指導要領解説総則編 株式会社ぎょうせい
文部科学省 2008 学習指導要領解説保健体育編 東山書房
文部科学省 2008 学習指導要領解説総合的な学習の時間編 教育出版
文部科学省 2012 学習指導要領 東山書房

資料 学習ノート（新しい空手道情報誌 あゆみ 2011vol. 1～2 2012vol. 3～6 引用・参考）

平成二十四年度

空手道



学習ノート

1 年 組 春 氏名()

今年の目標

- 武道(空手道)を学ぶ意義を知る
- 基本の突き・受けを習得する
- 基本形の団体演武を行う

～～～ 授業の約束事項 ～～～

- 相手を尊重する心と態度を大切にしよう。
武達は「礼」に始まり「礼」に終わる。
- 自分の心と体をコントロールする力をつけよう。
「空手に先手なし」
- 毎時限、めあてをきちんともって授業にのぞもう。
- 仲間と協力し、お互いに教え合って学習しよう。
- 安全に留意して、練習や試合をしよう。

☆空手道の特性☆

- (1) 左右対称な動きが多く、身体全体をバランスよく使われる。
- (2) 相手の動きに応じて自由に攻防し合う組手競技と、相手の動きを想定し構成された形競技がある。
- (3) 協調性・判断力・創造性が養われる。また、格闘技形式特有の勇気・決断力などを養うことができる。
- (4) 練習や試合では、相手を尊重する態度、礼儀、公正な態度などを養うことができる。

～空手道の歴史～

空手道発祥の地は沖縄です。かつて琉球王国であった沖縄県に古くから伝わっていた「手」(タイー)という武術が、中国から伝わった中国武術の影響を受けて独自の発展を遂げたものとされています。1904年ごろには那覇市をはじめ沖縄各地で一般公開されるようになり、その後も知られていった。

1

空手道の学習計画

時	学習内容
1	○オリエンテーション ・空手道の歴史・特性 ・学習の仕方
2	○基本動作を身につけよう 1 ・突き(正拳突き、逆突き)
3	○基本動作を身につけよう 2 ・突き(正拳突き、逆突き、追い突き)
3	○基本動作を身につけよう 3 ・受け(上段受け、下段受け)
4	○基本動作を技につなげよう 1 ・受け技(突きの受け)
4	○基本動作を技につなげよう 2 ・受け技からの突き技(上段受け→中段突き)
5	○基本動作を技につなげよう 3 ・受け技からの突き技(下段受け→中段突き)
7	○身につけた技能を用いて個人形を身につけよう ・基本形を身につけようしよう
8	・形の部分練習
9	・形全体を通した練習
9	・団体形の練習
10	○団体形(基本形)発表会

2

○礼の仕方(正座と座礼)

正しい正座をしてみよう

正座では、膝の横並びと股の並びは正座の心を表わし、礼の姿勢を整えることに役立ちます。そのほか「礼」(れい)という字が、礼をしようとする気持ちを表わしています。そのほか「礼」(れい)という字が、礼をしようとする気持ちを表わしています。そのほか「礼」(れい)という字が、礼をしようとする気持ちを表わしています。



正しい座礼をしてみよう

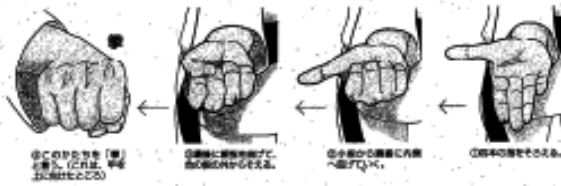
正座では、膝の横並びと股の並びは正座の心を表わし、礼の姿勢を整えることに役立ちます。そのほか「礼」(れい)という字が、礼をしようとする気持ちを表わしています。そのほか「礼」(れい)という字が、礼をしようとする気持ちを表わしています。そのほか「礼」(れい)という字が、礼をしようとする気持ちを表わしています。



3

○拳の握り方

拳を握ってみよう



○突きの手さし

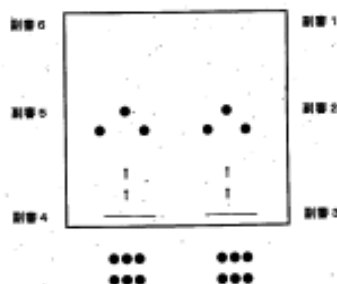
突きをしてみよう①



①②	＜＞月＜＞日＜＞曜日
本時のめあて	
自己評価	相手を尊重し、礼儀正しくできたか。 A・B・C 課題解決のために工夫して学習できたか。 A・B・C 技能が高まったか。 A・B・C 空手道の知識や技のポイントを理解したか。 A・B・C
今日の感想・反省・課題・質問など	
仲間から一言	

○団体形の試合方法

- ・1チーム3名（4名の場合もある）
- ・演武が終わったら、審判（副審）を行う。
- ・コートは、9m×9mとする。
- ・演武について
 - ①コートに入り、統一列で気をつけ・礼をする。
 - ②前に演武隊を作る。
 - ③最初の合図で始める。
 - ④終わったら、礼をして元の線に戻り、判定を待つ。
 - ⑤判定が出たら、礼をして審判の位置へ移動する。



①	＜＞月＜＞日＜＞曜日
本時のめあて	
自己評価	相手を尊重し、礼儀正しくできたか。 A・B・C 課題解決のために工夫して学習できたか。 A・B・C 技能が高まったか。 A・B・C 空手道の知識や技のポイントを理解したか。 A・B・C
今日の感想・反省・課題・質問など	
仲間から一言	

②	＜＞月＜＞日＜＞曜日
本時のめあて	
自己評価	相手を尊重し、礼儀正しくできたか。 A・B・C 課題解決のために工夫して学習できたか。 A・B・C 技能が高まったか。 A・B・C 空手道の知識や技のポイントを理解したか。 A・B・C
今日の感想・反省・課題・質問など	
仲間から一言	

③	＜＞月＜＞日＜＞曜日
本時のめあて	
自己評価	相手を尊重し、礼儀正しくできたか。 A・B・C 課題解決のために工夫して学習できたか。 A・B・C 技能が高まったか。 A・B・C 空手道の知識や技のポイントを理解したか。 A・B・C
今日の感想・反省・課題・質問など	
仲間から一言	

空手道の授業を終えて

- ① 自己評価表（あてはまるものに、○を付けなさい）
A: 上手にできる B: できる C: やり方は分かるが上手にできない D: ほとんどできない

項目	評価	項目	評価
点座	A・B・C・D	移動（前座立ち）	A・B・C・D
礼法（座礼）	A・B・C・D	移動（通気き）	A・B・C・D
礼法（立礼）	A・B・C・D	移動（通気き）	A・B・C・D
立ち方（五つ）	A・B・C・D	移動（上級受け）	A・B・C・D
その場の突き	A・B・C・D	移動（下級受け）	A・B・C・D
その場の受け	A・B・C・D	基本形	A・B・C・D

② 授業を終えての感想
